

日本の野生植物栽培記録⑥ ～トウゴクサバノオ～

井上尚子

広島市は、広島市佐伯区湯来町の恵下埋立地（仮称）整備事業の実施によって自生地が潰されるトウゴクサバノオ（キンボウゲ科。広島県のレッドデータブック 2014 では絶滅危惧Ⅱ類）を事業実施後の影響がないと考えられる周辺の4ヵ所に移植し、その生育状況のモニタリング結果を平成26年7月に発表した。発表時点では4ヵ所の移植先のうち2ヵ所で生存していたが、開花には至っていなかった。そこでこれらが絶滅するリスクを回避するため、広島市から広島市植物公園が恵下のトウゴクサバノオ個体群の生息域外保全を依頼された。2014年3月と2015年4月の2度にわたって十数株ずつを預かり栽培調査したが、今回は2014年に預かったものについての経過を報告する。

栽培の概要と生育状況

2014年4月、自生地から周辺約10cmの表層土壌ごと掘り取られたトウゴクサバノオ十数株が、長さ65cm、奥行き23cm、高さ18.5cmのプラスチックのプランター3つに植栽された状態で、広島市植物公園に持ち込まれた。これらは高さ約2.5mの生け垣横東北側に設置された高さ約50cmの棚上もしくは幅約30cmのコンクリートの溝の上に置き、これらの株及びその株から採集した種子からの栽培を行った（図1）。栽培場は6月中旬までは遮光なし、それ以降秋までは約2mの高さに寒冷紗（ダイオネット50）を張って50%遮光した。トウゴクサバノオの実生の栽培の概要及び生育状況を表1にまとめた。



図1 栽培環境。トウゴクサバノオを○で囲った



図2 掘り上げた株
(2015年12月30日)

表1 トウゴクサバノオの実生の栽培概要及び生育状況

年月日	栽培概要 及び 生育状況
2014年 5月29日	結実した種子を50～60粒採集し、径2～5mmの日向土、赤玉土、パーミキュライトの混合土を用いて9cmポット3個、15cmポット1個に覆土せず播種した
2015年3月末	播種した種子の77～92%が発芽した
4月24日	実生の本葉が1枚展開した。これらをポットから幅500mm、奥行き350mm、高さ85mmの育苗トレーに植え替えた。植え替え時は径2～5mmのボラ土、赤玉土、鹿沼土の混合土に腐葉土を3割混ぜた用土を用いた
6月21日	脇芽はまだ認められなかった
7月30日	脇芽から育った子株が確認できた
12月30日	秋から冬にかけて葉が黄ばんだが、落葉はしていない。株張が約20cmあった平均的な一株を掘り上げて調べると、子株は4つあった（図2、3）



図3 掘り上げた株を株分けした（2015年12月30日）

この他、2014年5月に種子を採集した株はプランターでそのまま栽培を続けている。種子を採集した株は枯死したものの、採集するまでにすでに落下していた種子があったと思われる、今現在アオイスミレやヒメウワバミなどとともに14株が生育中である。

まとめ

広島市植物公園でトウゴクサバノオを播種して栽培してみた結果、春先に開花、初夏に結実し、採り播きした種子は翌年の春に発芽した。発芽した年は、成長後、夏に脇芽を出し子株を増やしたが、花は咲かなかった。これまでの栽培経験からこれらは翌年の春に咲き、結実してから枯死すると思われるが、これが確認できるのは2016年の春である。トウゴクサバノオは閉鎖花もつけると言われているが、これに関する調査は今後の課題となる。

引用文献 広島市・中外テクノス株式会社 2014. 恵下埋立地（仮称）整備事業に係る希少植物モニタリング業務（H26）現地調査結果. 13pp.